

MLP市場の現状と今後の見通し

2015年10月2日

※以下のコメントは、CBREクラリオン・セキュリティーズが提供するコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

<市場動向>

9月のMLP市場(現地ベース)はアレリアンMLP指数(米ドルベース)で15.3%下落しました。

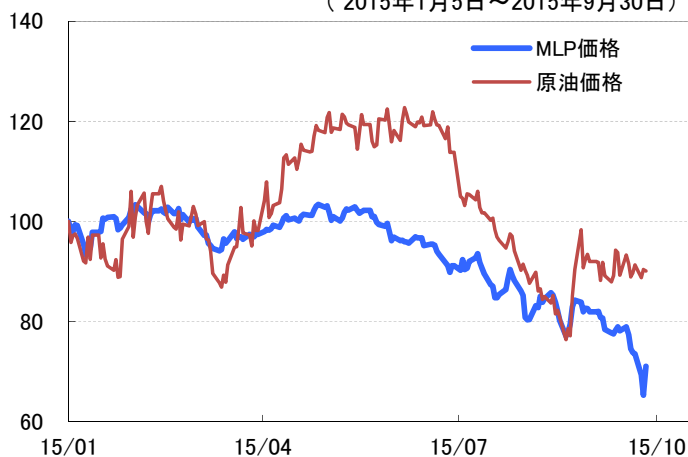
中国の景気減速懸念や米国の金融政策の先行き不透明感などを背景とした米国の株安、原油の大きな価格変動、エネルギー・セクター全般に対する投資家センチメントの悪化などが市場の重しとなりました。MLP市場の投資家心理が弱含む中で、増資に伴う需給バランスの緩みもマイナス要因となりました。9月下旬にかけては、リスク回避姿勢の継続やMLP関連ファンドの月末のポジション調整などでMLPは大幅に売られたものの、9月最終日には買い戻しの動きが優勢となり大きく反発しました。原油価格は変動が大きく、月間では8.4%下落しました。

なお、MLP関連ニュースでは、NGLエナジー・パートナーズがNGLのジェネラル・パートナーの取締役会で4,500万米ドル相当の自社株買いを承認したことを発表したことが好感された一方、エナジー・トランスファー・エクイティによるウィリアムズ・カンパニーズの買収について、合意された買収額が当初よりも下回ったことが嫌気されました。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

MLPと原油価格の推移

(2015年1月5日～2015年9月30日)



※MLP価格の推移は、Alerian MLP Index(米ドルベース)を使用しています。

※原油価格は、WTI原油先物(第1限月)の価格を使用しています。

※MLP指数と原油価格は、2015年1月5日を100として指数化したものです。

※Alerian MLP Indexは、Alerianの商標であり、当該インデックスに関する全ての権利はAlerianに帰属します。

(出所)ブルームバーグ

<原油価格が下げ止まりつつある中、MLP市場が下落した背景>

MLP市場の大幅な下落の背景としては、主に以下の3点が挙げられます。

- ① 2015年8月にMLP個別銘柄の経営トップが弱気な配当成長目標を示したことで、MLP市場の投資家心理の悪化が継続していること
- ② ヘッジファンドによる売りポジションの増加
- ③ 個人投資家のろうばい売り

ただし、9月30日にはショートカバー(空売りの買い戻し)の動きが見られ、アレリアンMLP指数は8.8%の大幅上昇となりました。また、個人投資家による売りの一方で、機関投資家の間では、直近の下落を背景にMLPの資産クラスへの関心が高まっている兆しも見られます。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

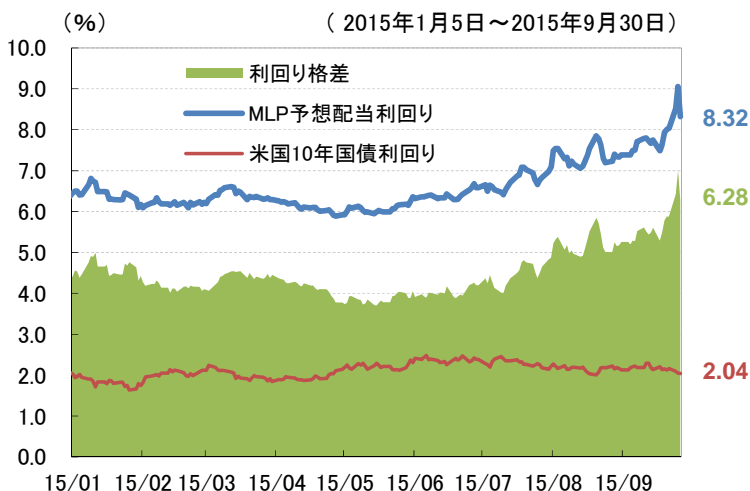
大和投資信託

Daiwa Asset Management

<安定した配当は継続する見込み>

直近の価格下落で予想配当利回りは8%台まで上昇しています。配当の安定性を懸念する声もありますが、大半のMLPにおいて減配のリスクは低いとみています。エネルギー商品価格の変動の影響を受けにくいパイプラインや貯蔵施設などの川中事業を営むMLPの2016年の加重平均カバレッジ・レシオ(配当原資÷配当)は1.16倍(CBREクラリオン・セキュリティーズ、ファクトセットによる。)で、十分な配当原資を有しています。一方で原油価格の低迷で、設備投資については減速が予想されます。そのため、今後の配当成長のペースは鈍化することが見込まれますが、当面の配当については、既存保有施設と2015年から2016年に完工する施設のキャッシュフローに支えられると見込まれます。生産活動は依然として活発であり、既存施設の収益にとってはプラスの傾向です。

MLP 予想配当利回り



※MLP 予想配当利回りは、Alerian MLP Index(米ドルベース)を使用しています。

(出所)ブルームバーグ

<市場展望>

2016年の配当成長予想は依然としてプラスになる見込みです。配当成長予想を支える要因としては、使用料契約に基づいた収益、保有施設の高い稼働率などが挙げられます。一方で、成長性の高い銘柄と、商品価格に対するエクスポージャーが高い銘柄や低成長銘柄の間でパフォーマンスの強弱が分かれる見込みです。

MLPの設備投資についてはコストを上回る魅力的なリターンを背景に今後も輸送、貯蔵、精製・処理といった川中インフラ施設への投資が継続する見通しです。

直近の金融市場の混乱で増資による資金調達環境は幾分悪化しており、MLPの成長計画にとってはリスクとなっています。直近のMLP市場の価格変動や資金調達環境の変化により、MLPのM&A(企業の合併・買収)が一層進む可能性があります。

現在のMLP市場の価格水準は、ほぼ配当成長しない前提での水準と考えられる一方で、MLPは今後1年間で考えても、8%程度の魅力的な配当利回り、6-7%程度の配当成長(CBREクラリオン・セキュリティーズ予想)を勘案して、魅力的なトータル・リターンを提供する可能性があります。

以上

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.24200%（但し、最低 2,700 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会